

結婚についてこんなことがありました



世間体って？

世間体は、「世間」に対する見栄や体裁をいいます。世間体を気にすることがそのまま差別することにはなりません、差別や偏見につながってしまうことがあります。ものごとを決めたり、判断する時、「こうしたいなあ」と感じて、「周りの人はどうだろうか」と世間体にとらわれてしまう傾向はありませんか。このような態度が差別意識の解消を妨げる原因のひとつになっています。

「世間」とは一人ひとりの集まりであり、「世間体」をつくっているのも私たち一人ひとりです。だからこそ、自分の意識や考え方をしっかり持つことで、世の中を変えることもできます。見栄や体裁にとらわれて、もっと大事な「幸せに生きること」、「自分らしく生きること」を犠牲にしたり、妨げたりしていませんか。

誤った固定観念や偏見はありませんか？

同和問題は、出身や住んでいる所を理由にした差別に関わる日本固有の人権問題であり、憲法で保障されている基本的人権に関わる重大な社会問題です。

1965年（昭和40年）に「同和対策審議会答申」が出され、同和問題の解決に向けてさまざまな取り組みがなされました。その結果、生活環境改善、人権意識の高まりなどさまざまな面で成果をあげてきています。

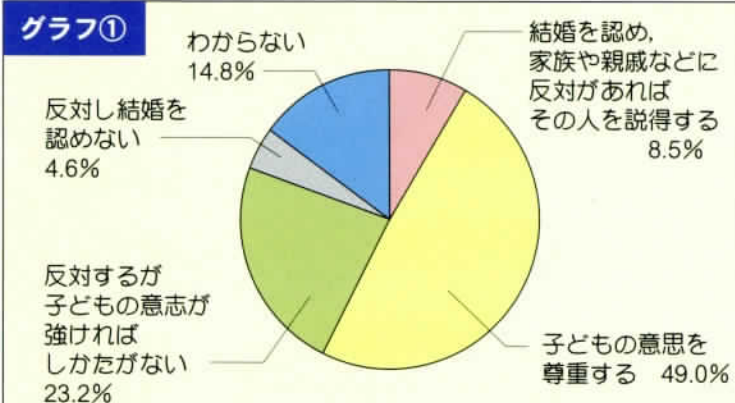
しかし一方では、行政書士が職務上の特権を悪用して戸籍謄本を不正に取得し、それを興信所に売り渡していたという事件やインターネット上で他人を誹謗中傷したり、差別を助長する表現の書き込みが頻発するなど、さまざまな差別事件・事象がおきています。

同和地区の出身者に対する固定観念や偏見が、問題の解決を遅らせる原因のひとつになっています。同和問題の解決に向けて、私たち一人ひとりが同和問題について正しく理解していくことが大切です。

2003年福山市人権・同和問題についての意識調査より

《結婚に対する態度》

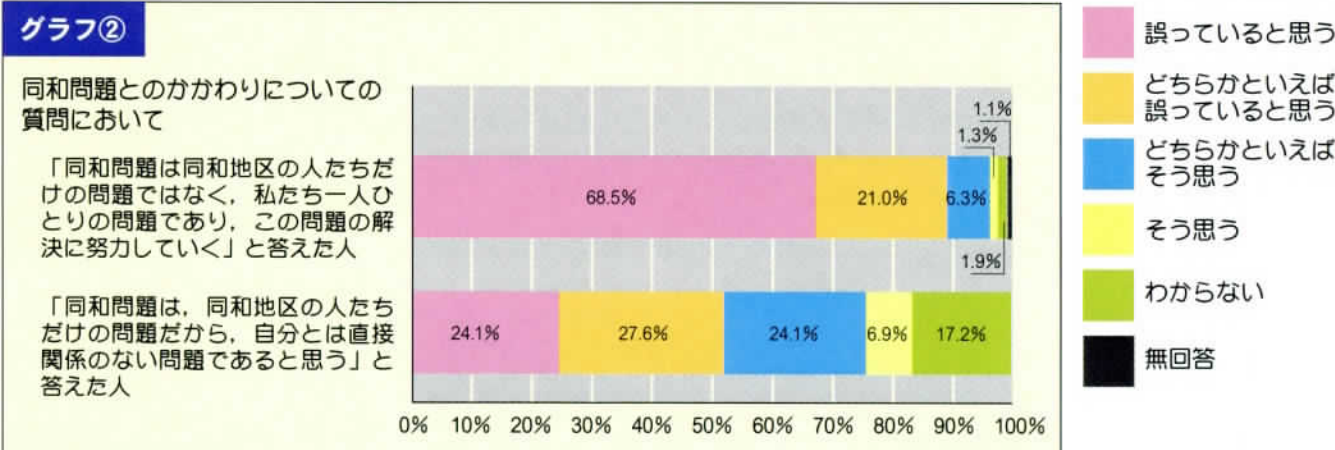
かりに、あなたのお子さんの結婚しようとする相手が、同和地区の人であるとわかった場合、あなたはどのようにしますか。



グラフ①から、「結婚を認め、家族や親戚などに反対があればその人を説得する」と「子どもの意思を尊重する」という考え方を合わせると57.5%となり、前回調査（94年）と比較して5.2ポイント高くなりました。一方、「反対し結婚を認めない」と答えた人は4.6%で、前回調査の約1/3になっています。

《同和問題とのかかわりの意識と他の人権問題の認識には相関性がある》

「障害者は就職や職場で不利益を受けてもしかたがない」という考え方についてどのように思われますか。



グラフ②から、同和問題について、「私たち一人ひとりの問題であり、この問題の解決に努力していく」と答えた人の中には、「障害者は就職や職場で不利益を受けてもしかたがない」という考え方について「誤っていると思う」と答えた人が68.5%と高い数値を示しています。一方、「自分とは直接関係のない問題であると思う」と答えた人では24.1%と低く、逆に「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせて31.0%と高くなっています。このことから、同和問題の解決に積極的な人は、「障害者は就職や職場で不利益を受けてもしかたがない」という考え方に否定的な傾向が強いといえます。

このような傾向は、女性や高齢者、子ども、外国人の人権問題についてもみられ、同和問題に関する意識と他の人権問題の認識には相関性があると言えます。